

<第141号>

令和7年7月1日発行

少年センターだより

可児市役所 地域協働課内 可児市少年センター ☎ 62-1111(内線 2116)

199 日、2191 人

可児市では、市の青少年育成推進委員・各地区の青少年育成推進委員会補導部員の皆さんにご協力いただき、青色回転灯搭載車両（通称『青パト』）による街頭補導活動を行っています。上の数字は、その活動に関するものです。

「199 日」は、昨年度に実施した街頭補導活動の日数。「2191 人」は、その活動中に補導員の皆さんが声をかけてくださった青少年の数です。声かけの多くは、あいさつ。補導員さんのあいさつに、気持ちの良いあいさつを返してくれた子どもたちが沢山いたことが補導日誌に記されています。

ちなみに、「500 人」という数も昨年度の街頭補導活動の中で見るができます。何の数だと思われますか。

これは昨年度、補導活動に参加していただいた補導員さんの延べ人数です。改めて、199 日の補導活動の裏には、多くの皆さんのご協力があったことが分かります。

この場をお借りして、昨年度の補導員の皆さんに感謝を申し上げますと共に、今年度の補導員の皆さんには、1 年間の補導活動へのご協力をお願いいたします。

可児市少年センターと補導活動

可児市少年センターは、少年補導の総合計画樹立と実践活動を推進し、少年の非行を防止すると共に、その健全な育成を図るため、可児市に設置されたものです。

『少年補導の手引き』（岐阜県青少年育成県民会議少年補導部会）には、「補導とは、『過ちを補い、正しい道に導く』『足りないところを補い助ける』という意味を持っています。『少年補導』は、少年の健全育成の精神にのっとり、少年の非行や被害を防止するため、適切な処理を行う活動」とあります。

可児市少年センターでは、この精神に沿って、市民の皆さんのご理解とご協力のもと、補導活動を行っています。

2 面「令和 6 年度の少年非行の状況」 3 面「市民の皆さんへのお知らせ」 4 面「『青パト』から見たこと 可児市少年センター相談窓口について」

令和 6 年度の少年非行の状況

昨年度、可児警察署に検挙された少年は 49 人

この 2 年で 1.5 倍増も、近年のピーク時は 277 人

下の表をご覧ください。タイトルにあるように、平成元年度から昨年度(令和 6 年)までの間に可児警察に検挙された少年の数です。

近年も少年による凶悪犯罪、そして少年が被害者となる痛ましい事件が後を絶たない印象があります。その一方で、可児署管内における少年の検挙人数は、表の範囲内では平成 10 年の 277 人をピークに大幅に減少。特に平成 28 年以降は、最も低い値で推移しています。

今、最も心配されるのは、薬物。そして…

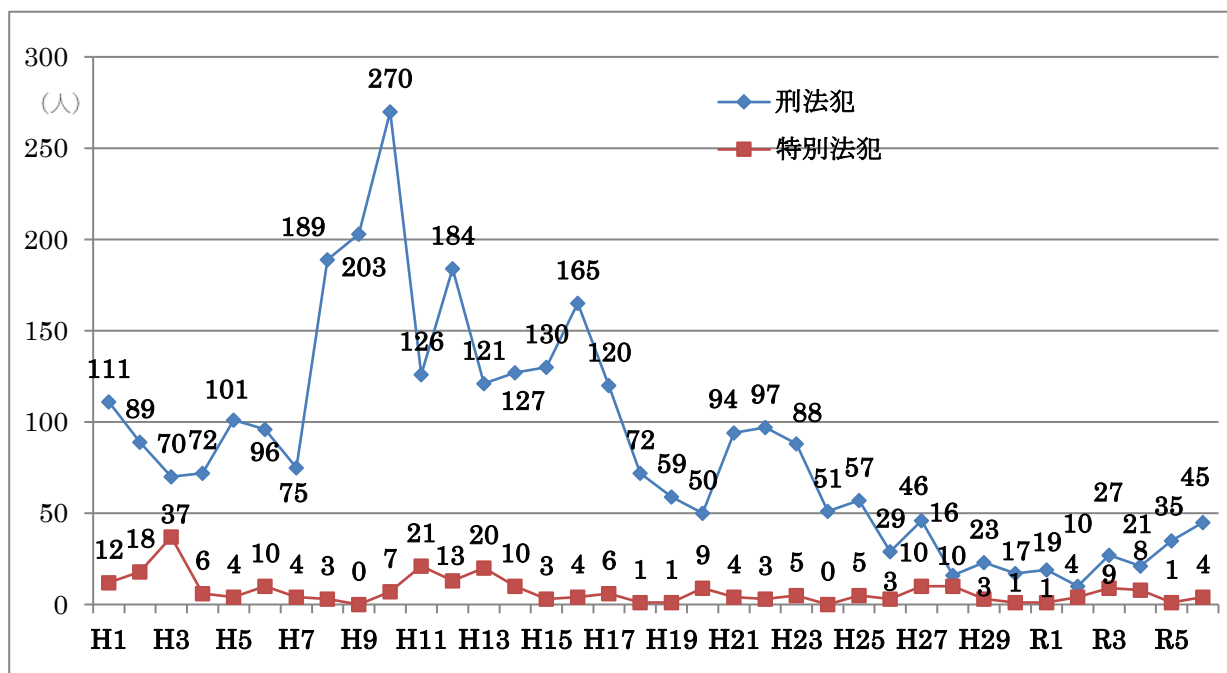
警察によれば、少年に関わる問題や事件で目下のところ一番危惧されるのは薬物とのことです。

今は、SNS を通じて誰でも簡単に薬物を手に入れることができるようです。未成年者も例外ではなく、いともたやすく薬物を入手しているといいます。また周知のとおり、その依存性の高さから、一度手を染めるとなかなか抜けられないことも薬物問題の難しいところです。

SNS といえば、「闇バイト」でもその温床となっています。子どもたちのいじめ問題も SNS を媒介としている場合が多いようです。

今や少年たちのさまざまな事象に密接にかかわる SNS。少年非行を防止するうえでも、大きなカギとなることは間違いなさそうです。

《平成～令和年間における少年の検挙人数の推移（可児署管内）



※刑法犯：窃盗犯・粗暴犯等、特別法犯：軽犯罪法違反・迷惑防止条例違反・銃刀法違反等。

市民の皆さんへのお知らせ

毎年、可児夏まつりの後にも補導活動を行っています

例年は 8 月半ばに開催されていた可児夏まつりが、ご承知のとおり今年は 6 月に変更されました。これも熱中症を避ける等が大きな理由とのこと。とは言え、この大きな判断に至るには大変なご苦勞もあったかとお察しします。

さて、毎年この夏まつり終了後に、可児警察署と合同で可児保護区保護司会・可児地区少年補導員・可児市青少年育成推進委員の皆さんによる補導活動が行われてきたことをご存じでしょうか。今年の夏まつりは残念ながら雨天。補導員の皆さんの体調等を考慮して補導は中止となりました。

7 月 22 日～8 月 23 日 「夏休み特別補導」を予定

多くの子どもたちにとっては楽しみでも、大人には何かと心配でもある夏休み。そんな心配を一つでも杞憂に終わらせるため、夏休み中、夜間の補導活動を行います。

参加いただくのは、各市立小中学校 PTA 会長・各地区青少年推進委員会補導部長・可児市青少年育成推進委員の皆さんです。7 月 22 日から 8 月 23 日の間の 13 日間、いずれも 20 時半～22 時半まで、『青パト』で市内を巡回します。この補導の特徴は、同じ地区の PTA 会長・補導部長・市推進員の皆さんが『青パト』に同乗されることです。これは同乗することで、子どもたちの健全育成の中心を担ってくださる皆さんに、お住いの地域や子どもたちに関するそれぞれの情報を共有していただければという趣旨からです。

昨年の夜は、ひどい暑さのせいか外出する人がまばらな日もありました。しかし、青色の回転灯を乗せた車が市内を巡回する意味は、防犯という点からは小さくないと思われます。

参加いただく皆さん、暑い夜となるでしょうが、よろしくお願いします。

今年の『可児市青少年育成シンポジウム』11 月 15 日【土】は、 子どもたちのネットや SNS、スマホについて考えます

11 月 15 日（土）、可児市文化創造センターで開かれる今年の『可児市青少年育成シンポジウム』（主催：可児市青少年育成市民会議 共催：可児市 PTA 連合会）では、子どもたちのインターネットやスマートフォンに関わる問題の研究に携わり、児童生徒・保護者・教員を対象に啓発講演活動をされている竹内義博さん（ソーシャルメディア研究会 チーフ技術指導員）に講演をお願いしています。入場は無料。多くの市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

お問い合わせは、可児市役所地域協働課 可児市青少年育成市民会議事務局までお願いします。

～『青パト』から見たこと～

「危険な暑さ」から、下校する子どもたちを守りましょう

昨年の夏、顔を真っ赤にしながら、汗だくで下校する小学生を市内の至る所で見ました。あの異常な暑さについてはあえて言うまでもありませんが、暑さは下校する小学生を直撃していました。

小学生の下校は14時半を過ぎた頃から始まります。日中で最も気温が高い時間帯です。なかには家まで1時間近く歩く子もいます。ちゃんと帰れるのかと心配しながら見守りました。特に心配だったのは1・2年生です。その小さな体にはまだ大き過ぎるランドセルを背負う姿が輪をかけたからでしょう。

高学年の児童や中学生・高校生であっても、夕方の早い時間帯であれば気温もそれほど下がりません。事態は大して変わらないように思われます。

本当に体調を崩してしまった子にも遭遇しました。一人は小学2年生です。歩道に立ち止まったまま歩けなくなっていました。もう一人は高校2年生。意識がもうろうとし、ふらつきながら歩いていました。

この夏も予想される異常な暑さ。その暑さから子どもたちを守るために、可児市だけでなく、全国の学校でその対策が練られています。そこに、通学路周辺にお住いの皆さん、車の運転中等に子どもたちの下校に出会われた皆さんのお力添えがあれば、子どもたちにとってこれほど心強いことはありません。

市民の皆さん、是非より一層、注意して下校する子どもたちを見守ってあげてください。よろしくお願いします。

少年センター相談窓口をご利用ください

家族のこと、友だちやクラスメイトのこと、
ネットやSNSでのこと、勉強や進路のこと
など、どんなことでもご相談ください。

したのQRコードからなら、
いつでもお申し込みできます。



TEL62-1111 (内線2116)

受付：平日9:00～16:00

メール seisyonensoudan@city.kani.lg.jp

○対象は、小学生～青年、保護者の方・地域の方・外国籍の方のご相談も受け付けます。

○対応は青少年相談員がいたします。個人の秘密は厳守します。安心してご相談ください。

